

2026年 3月期 報告書

2025年4月1日
▼
2026年3月31日

車 日本車両
NIPPON SHARYO

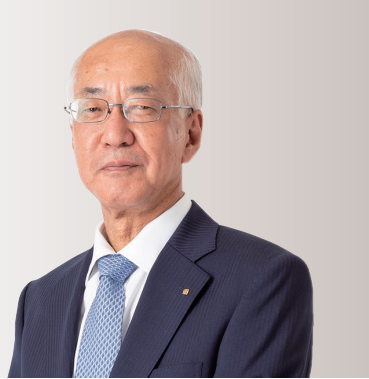


<表紙写真> 名古屋鉄道9500系

株主の皆様へ

株主の皆様には、
平素は格別のご支援を賜り
厚くお礼申し上げます。

代表取締役社長 **田中 尚**



2026年3月期報告書(2025年4月1日~2026年3月31日まで)をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期の我が国経済は、企業収益の改善等により景気は緩やかな回復の動きが見られましたが、継続的な物価上昇に加え、米国の通商政策及び中東情勢等の地政学リスクの影響を注視する必要があり、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当連結会計年度の当社グループの業績は、鉄道車両事業、エンジニアリング事業の売上が増加したことなどにより、売上高は前連結会計年度比3.8%増加の99,971百万円となりました。利益面につきましては、鉄道車両事業、輸送用機器・鉄構事業、エンジニアリング事業の利益が増加したことなどにより、営業利益は前連結会計年度比67.5%増加の11,615百万円、経常利益は前連結会計年度比64.2%増加の11,986百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度比81.8%増加の11,661百万円となりました。

当期の期末配当につきましては、想定よりも堅調に推移した業績動向などを踏まえて、直近の配当予想より1株あたり5円増配の25円に増額いたします。また、次期の配当につきましては、中間配当、期末配当ともに1株あたり25円を予定しております。

当社は今年度創業130周年を迎えます。4月1日に、企業理念・行動指針を刷新し、企業として目指すべき姿を明確にしました。製造業として、品質第一の文化を徹底するとともに、社員一人一人の前向きな挑戦、改善を促し、企業としても更なる成長を目指して取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き何卒ご理解、ご支援を賜りたく、心からお願い申し上げます。

2026年6月

鉄道車両事業

[売上高] **48,556百万円** (前期比8.5%増加)

公営・民営鉄道向け車両の売上が増加したことなどにより、増収となりました。

JR東海・JR西日本
N700S 新幹線電車

2020年7月に営業運転を開始した東海道・山陽新幹線の最新型車両です。

2025年度はJR東海向けに5編成を納入しました。また、当社は、2025年10月には、2026年度から2028年度にかけて納入予定のN700S 12編成を新たに受注しました。

N700SはN700系以来のフルモデルチェンジ車両であり、安全性、安定性、快適性、環境性のすべての面で最高水準の性能を備えています。

N700Sはさらなる発展を続けており、今後は、グリーン車よりも上質な設備・サービスを備えた上級クラス座席(個室タイプ・半個室タイプ)の導入や「ドクターイエロー」による検査を代替する検測機能の一部営業車への搭載がJR東海より発表されています。

当社は、多様化する鉄道事業者様のニーズを的確に捉え、今後も安全で高品質な車両の提供を通じて、乗客の皆様の安全性、利便性のさらなる向上に貢献してまいります。



JR東海 新道床更換保守用車(中間作業車)

2025年度から納入を開始したバラスト(線路の石)の運搬や交換時の掘削作業を行う保守用車両です。2025年度には、中間作業車および電源車の各1両を納入しました。



名古屋鉄道 9500系/9100系電車

2019年度から継続して納入している名古屋鉄道向け新型通勤車両です。2025年度には、9500系を7編成、9100系を2編成納入しました。

JR東海 315系

2022年3月から営業投入されているJR東海の新型通勤車両です。

315系は、新構造の車体と、当社オリジナルの「NS台車」、ならびに状態監視技術を採用した車両です。また、バリアフリー設備や車内防犯カメラの新設、開放感のあるインテリアの採用など、乗車中の快適性と安全性を追求しています。

当社は2021年度より315系の納入を進めてまいりましたが、2025年度に4両編成14編成を納入し、受注した352両すべての納入を完了しました。

当社は、多様化する鉄道事業者様のニーズを的確に捉え、今後も安全で高品質な車両の提供を通じて、乗客の皆様の安全性、利便性のさらなる向上に貢献してまいります。



京成3200形

2025年2月から営業を開始した京成電鉄の新型通勤車両です。2025年度には、1編成を納入しました。



小田急5000形

2020年3月から営業投入されている小田急電鉄の新型通勤車両です。2025年度には、1編成を納入しました。

建設機械事業

[売上高] 22,040百万円（前期比3.4%減少）

国内向けの大型杭打機の売上が減少したことなどにより、減収となりました。

新型杭打機 DHJ12S-8SP 販売開始

完全新設計となる新型杭打機「DHJ12S-8SP」を開発し、販売を開始いたしました。

本機は、累計約300台の販売実績を有する小型杭打機「DHJ12」の後継機として開発したモデルです。従来機より機体幅を約500mm縮小し狭隘地における施工性を向上させるとともに、高トルクの掘削ツールを装備し、コンパクトな機体と高い施工能力を両立しました。これにより、安定した鋼管杭施工を実現しました。

初号機の初稼働は、搬入経路や作業スペースに制約のある現場でしたが、コンパクトな機体を活かして搬入・設置もスムーズに進行しました。また、実施工についてもその操作性や作業効率について高い評価をいただきました。

今後もさまざまなニーズに対応した製品ラインアップの拡充を進め、お客様満足度の向上に取り組んでまいります。



低空頭障害撤去機 DHR70-8LH 販売開始

高架下など上空制限のある現場で施工が可能な低空頭障害撤去機「DHR70-8LH」を開発し、販売を開始いたしました。上空構造物の機能を損なうことなく作業できるため、老朽インフラの補強工事に最適です。独自の技術で社会インフラの発展に貢献し、企業価値の向上に努めてまいります。



マルチグリッパ販売堅調

全回転チューピング装置用掘削アタッチメント「マルチグリッパ」の販売が堅調に推移しました。当期には、さらなる施工効率向上を期した「マルチグリッパジョイント」の販売を開始しました。

輸送用機器・鉄構事業

【売上高】21,846百万円（前期比1.5%減少）

道路橋の売上が減少したことなどにより、減収となりました。

輸送用機器

住友重機械搬送システム向け 200tキャリヤ

2026年1月に住友重機械搬送システム向け200t積キャリヤを納入しました。

住友重機械搬送システムは、コンテナを取扱う港や造船工場で稼働する大型クレーンの製造を手掛けています。この度納入した200t積キャリヤは、それらの工場において大型部品の輸送を担います。

当社は製鉄所の中でコイルやスラブを搬送するキャリヤを製作することが多く、当社のキャリヤといえば製作所で使用されているイメージが強いですが、造船工場や橋梁工場など、鉄鋼業界以外の分野においても製品を展開しています。

住友重機械搬送システムはこれまで他社製キャリヤを使用されていましたが、造船所で稼働する当社の製品に興味を持っていただいたことがきっかけとなり、スペック・品質・実績等からご検討いただいた結果、初めて導入いただく運びとなりました。

現在、造船業界への注目が高まる中、造船業に欠かせないクレーン等の大型構造物を製造するための大事な動脈として、貢献していくことを期待されております。今後も多様なニーズに応える製品づくりに取り組んでまいります。



直胴LPGトレーラ

2025年11月に、ホクブトランスポート株式会社へ納品いたしました。主な用途は基地間輸送ですが、従来の異径胴形は製作が難しい車両でした。直胴化することで生産性の向上・コスト削減・ホイールベース短小化を実現いたしました。



太平洋セメント タキ1300形式

2025年2月に運用開始した、太平洋セメントのセメント運搬用の新型貨車です。2025年度は24両を納入しました。

鉄構

飯沼川高架橋竣工

首都圏中央連絡自動車道4車線化事業の一環として、当社は坂東IC～常総IC間に位置する「飯沼川高架橋」において、東側5橋の施工をおこないました。

現場は周囲に高い建物や高台が少なく、強風の影響を受けやすい環境であったため、クレーン作業時の荷ブレ防止や物の飛散防止には徹底した対策を講じ、ベント併用クローラークレーン工法を用いて桁架設を行いました。また、床版などのコンクリート施工量が多かったため、施工管理には細心の注意を払いながら作業を進めました。全施工延長は1,201.5mと長く広範囲にわたる現場であったため、河川と県道を跨ぐ箇所や、高圧線が横断し鉄塔が障害となる狭い場所での作業など、細部に至るまで安全第一を徹底し作業を進めました。

2025年11月に無事故無災害で無事竣工を迎えることができ、発注者である東日本高速道路株式会社関東支社からは高い評価をいただきました。今後も引き続き安全第一を徹底し、安心して利用できる社会インフラの整備に貢献してまいります。



国道139号Bo

JR東海道本線の富士・吉原駅間上部を通る跨線道路橋の架設工事です。鉄道の運行に支障をきたさないよう、跨線部は夜間に送り出し工法にて架設を行いました。



庵原高架橋

国道1号静清バイパスの東名清水IC付近を立体化する清水立体事業のうち、庵原交差点付近の製作架設工事です。横取り架設や多軸式特殊台車による一括架設など複数の工法を用いて、全長332.5mの橋梁を架設しました。

エンジニアリング事業

【売上高】7,452百万円（前期比13.8%増加）

鉄道事業者向け機械設備の売上が増加したことなどにより、増収となりました。

JR北海道 苗穂工場向け フラッシング装置

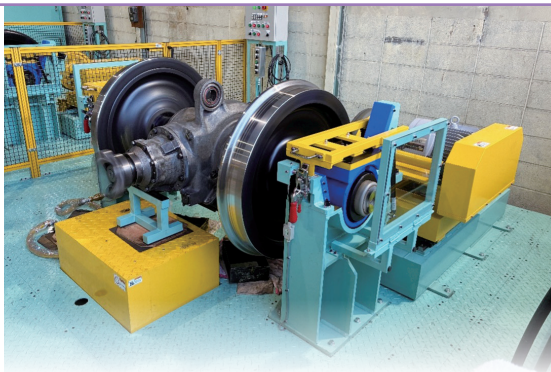
エンジニアリング本部では、鉄道車両の検査・修繕（検修作業）を支援する、各種「検修設備」を取り扱っています。2025年10月、JR北海道苗穂工場向けに、輪軸の歯車箱内を洗浄するフラッシング装置を納入いたしました。本装置は、JR北海道の在来線向け検修設備として初めての納入実績となります。

鉄道の安全は、鉄道車両が一定の走行距離または期間ごとに専用工場へ入場し、検査・修繕を行うことにより維持されています。これらの検修作業を効率的かつ精度良く実施するためには、専用設備の存在が不可欠であり、当社は車両の入場から出場に至るまで、検修工程全体を支える設備を幅広く提供してきました。

鉄道車両の台車は、輪軸、台車枠、主電動機、ブレーキ装置などで構成されますが、本装置は中でも輪軸に取り付けられた歯車箱内部を、輪軸を回転させながらオイルで洗浄する装置です。

今回納入した装置は、従来設備と比べて汎用性を大幅に向上させ、これまで電車用・気動車で別々に使用していた装置を統合し、1台で両方の輪軸に対応可能としました。これにより、お客様の検修作業効率の向上に貢献しています。

今後も検修現場における作業改善、省人化・省力化を通じて、鉄道事業者が直面する人手不足などの課題解決に貢献し、安全・安定輸送を支える検修設備の提供を続けてまいります。



次期の見通し

次期連結業績見通しは、売上高107,000百万円、営業利益8,800百万円、経常利益9,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益7,500百万円をそれぞれ予想しております。

売上高は、受注環境が前連結会計年度から引き続き堅調に推移しており、増収となる見通しです。利益につきましても、経営基盤の強化が進んできたこともあり、当初は前連結会計年度と同程度の利益確保を見込んでおりました。しかし、最近の中東情勢の緊迫化により業績影響が発生するおそれがあります。中東情勢の緊迫化の今後の見通しや影響を正確に見通すことは困難であります。中東情勢の緊迫化の不透明さを踏まえ、減益の業績見通しとしております。

引き続き、全社を挙げて、より一層の品質向上や低コスト化、業務の効率化を推進し、経営体力の強化に努めてまいります。

2026年3月期の概況

売上高 鉄道車両事業、エンジニアリング事業の増収により、全体としては増収。

営業利益 鉄道車両事業、輸送用機器・鉄構事業、エンジニアリング事業の利益が増加したことなどにより、全体としては増益。

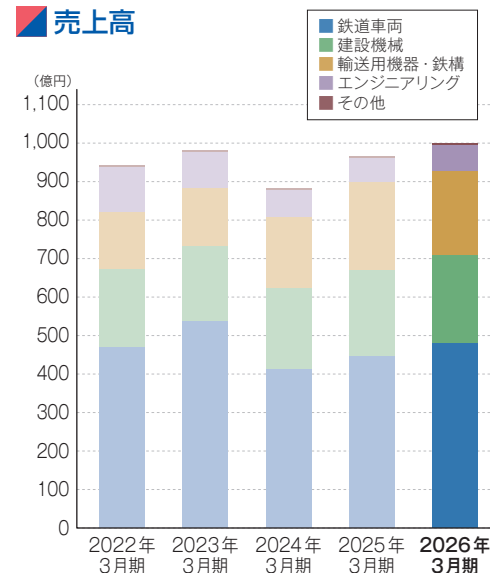
親会社株主に帰属する四半期純利益 営業利益の増益により、増益。

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
売上高 (百万円)	94,022	97,969	88,058	96,340	99,971
営業利益 (百万円)	6,237	4,461	6,060	6,935	11,615
経常利益 (百万円)	6,317	4,494	6,306	7,297	11,986
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	5,226	3,118	5,381	6,416	11,661
1株当たり当期純利益 (円)	362.14	216.08	372.93	444.62	808.18
自己資本当期純利益率 (%)	11.2	6.3	9.5	10.1	15.9
総資産経常利益率 (%)	4.7	3.5	4.8	5.5	8.5
売上高営業利益率 (%)	6.6	4.6	6.9	7.2	11.6
総資産額 (百万円)	132,868	124,363	136,397	131,164	152,564
純資産額 (百万円)	48,018	51,123	62,228	64,648	82,248
1株当たり純資産 (円)	3,316.74	3,531.25	4,312.21	4,480.23	5,700.10
自己資本比率 (%)	36.0	41.0	45.6	49.3	53.9

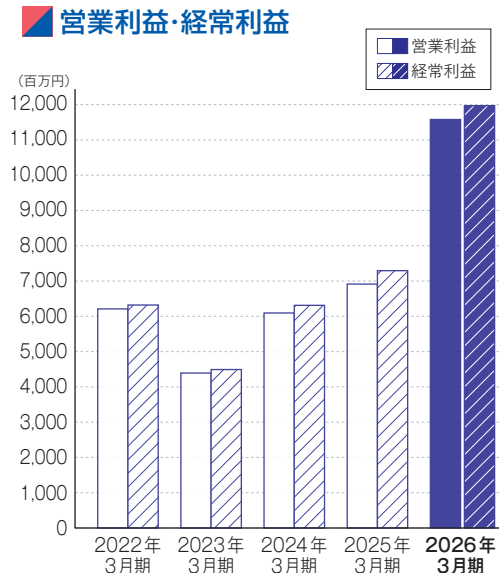
事業別 売上高

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	2026年3月末 受注残高
■ 鉄道車両	47,958	53,341	40,614	44,746	48,556	142,618
■ 建設機械	20,185	19,882	21,206	22,809	22,040	17,295
■ 輸送用機器・鉄構	13,855	15,528	18,422	22,182	21,846	35,303
■ エンジニアリング	11,957	9,155	7,746	6,548	7,452	4,169
■ その他	65	61	68	52	75	—
合計	94,022	97,969	88,058	96,340	99,971	199,387

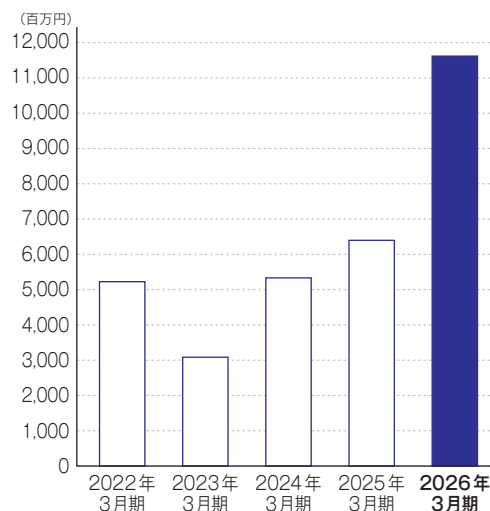
売上高



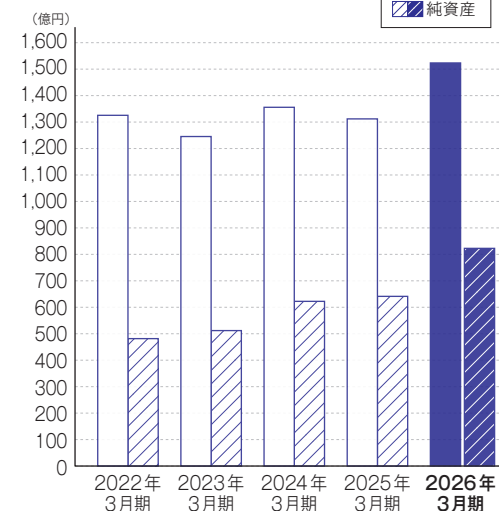
営業利益・経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



総資産・純資産



■ 米国建設機械展示会「CONEXPO」出展報告

2026年3月3日から7日まで、米国ラスベガスで開催された世界三大建設機械展示会の一つに数えられる「CONEXPO」に出展しました。米国パートナーの Drillers' Choice Inc. 社と共同ブースを構成し、橋脚基礎を全回転チューピング装置で掘削する様子を再現したジオラマ模型を展示しました。これにより当社製品の技術力を効果的に訴求し、現地ゼネコンや基礎施工業者様に対し、米国での販売およびレンタル展開を強くPRしました。

今後も米国市場の深耕に取り組んでまいります。



■ キャリヤ型AGV（ハイブリッド式）

輸送用機器の主力製品である大型自走式キャリヤは、これまで油圧駆動方式が主流でしたが、カーボンニュートラルに対する意識の高まりを受け、ニーズにお応えする形で、新たにハイブリッド方式のキャリヤを開発・製作しました。

本車両は、従来の同積載荷重の油圧駆動式キャリヤと同等のサイズを維持しながら、エンジン・発電機・バッテリーを搭載しており、高負荷走行時にはバッテリーから電力を供給して走行をアシストし、低負荷時にはバッテリーへの充電を行うことで、搬送サイクル全体における電力収支の最適化を図り、高効率な運用を実現しております。さらに、無人搬送台車（AGV）で培ってきた技術を応用し、磁気誘導方式による自動搬送システムを搭載することで、大型キャリヤでありながら自動搬送を可能としております。本製品は2026年3月に納車を完了し、同年4月よりお客様による運用が開始されています。

今後も、お客様の課題やニーズに対応した製品開発を推進し、引き続き当社製品の付加価値向上に努めてまいります。



■ 尾張三河橋現場見学会

建設業への関心を高めていただくことを目的としたキャリア教育の一環として、瀧上・日車特定建設工事共同企業体（瀧上・日車JV）が施工する都市計画道路 名古屋岡崎線 尾張三河橋の現場に小学生を招き、現場見学会を実施しました。

当日は、事業概要・工事概要・橋の作り方の座学を行った後、「高所作業試乗」「測量体験」「橋の模型づくり」「床版お絵描き」の4つの体験プログラムを実施しました。いずれも日常生活ではなかなか触れる機会のない内容であり、記念撮影を交えながら、楽しく学んでいただくことができました。

現場見学会後には、小学校から感謝状を、また参加した生徒の方々から感謝のお手紙をいただき、当社にとって大きな励みとなりました。今回の取り組みが子供たちにとって建設業をより身近に感じるきっかけとなっていれば幸いです。今後も、地域社会への貢献と次世代人材の育成に継続的に取り組んでまいります。



■ 名証IRセミナーオンライン「個人投資家向け企業説明会」登壇

2025年11月21日に名古屋証券取引所が主催する名証IRセミナー オンライン「個人投資家向け企業説明会」に専務取締役・深谷道一が登壇しました。

当日は、200名を超える多くの投資家の皆様から当社のプレゼンを聴講いただき、当社の各事業の概要や技術開発に関する取組み、業績等についてご説明しました。また、聴講者の皆さまからは当社の海外戦略や成長戦略などのご質問をいただきました。

本セミナーへの登壇を通じて、当社の事業概要や技術力のみならず今後の成長性を広くPRできました。

今後も一層の企業価値の向上に努めてまいります。



▲プレゼン資料とセミナーの様子

株主様向け工場見学会開催

株主の皆様へ当社の事業内容へのご理解を一層深めていただくことを目的として、昨年度は当社の鉄道車両事業の生産拠点である豊川製作所と建設機械事業の生産拠点である鳴海製作所の2拠点で、株主様向け工場見学会を開催しました。

当日は株主様・同伴者様にお越しいただき、普段はご覧いただくことができない製造現場を特別にご見学いただきました。見学を通して、当社の製品や品質へのこだわり、技術力の伝承、社員の熱意などといった、当社の最高品質のものづくりを感じていただきました。また、見学後の質疑応答では、今後の成長戦略や当社製品に関するご質問等を幅広くいただき、株主の皆様と交流を図ることができました。

今後も株主の皆様へ当社を身近に感じていただき、当社事業へのご理解をより深くめていただくための取組みを検討してまいります。

●豊川製作所



▲構体クレーン移動の見学



▲艤装作業の見学

●鳴海製作所



▲クローラ取付を見学している様子



▲建設機械の旋回の様子を見学

企業理念改定について

当社は創業130周年を迎える今年、成長に向けた変革を加速するため、2026年4月に企業理念を刷新しました。新たな企業理念は、「ものづくりに誇りを持ち、お客様のニーズに応え、社会基盤の発展に貢献する」です。長年培ってきた品質第一のものづくりを原点に、お客様から選ばれ続ける企業への進化を目指す意思を込めています。当社の誇りとは、品質・安全を最優先に守り抜く覚悟であり、改善を日常として積み重ねる姿勢です。また、お客様のニーズに応える力とは、お客様の真の困りごとを見極め、Q（品質）・C（コスト）・D（納期）・S（安全）を高い次元で実現する総合力です。

企業理念を確実に成果へ結びつけるため、私たちの行動指針も策定しました。行動指針は、社員一人ひとりが当事者意識を持ち、部門を越えて連携し、挑戦と改善を継続するための具体的な行動基準です。さらに、全社で変革に踏み出す意思を示すスローガンとして「Change for Future」を掲げました。この言葉には、環境変化を他人事として受け身で捉えるのではなく、自ら変わり、自ら未来をつくっていく存在であり続けるという決意を込めています。


企業理念・私たちの行動指針・スローガンを軸に、当社は企業価値の向上と社会への貢献を両立させていきます。

スローガン
Change for Future

企業理念
ものづくりに誇りを持ち、
お客様のニーズに応え、
社会基盤の発展に貢献する

私たちの行動指針

1. 私たちは、品質第一の行動をし、自分たちの仕事に責任を持ちます！
2. 私たちは、常に現地・現物に徹し、弛まぬ改善に努めます！
3. 私たちは、お客様に選ばれ続けるよう、新たな価値創造に取り組みます！
4. 私たちは、現状に満足せず、常に研鑽に努めます！
5. 私たちは、「前向き」・「連携」・「笑顔」により、活気のある職場を築きます！

 日本車両

「名証 IR EXPO 2026」に出展予定

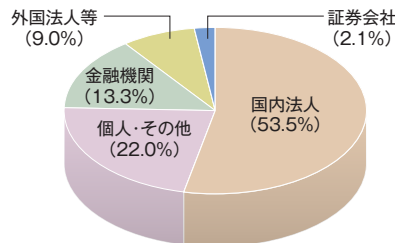
当社は、2026年12月4日、5日に吹上ホール（名古屋市）で開催予定の『名証 IR エキスポ 2026』に今年も出展いたします!!

会社の概要

商号 日本車輛製造株式会社 英文:NIPPON SHARYO, LTD.
 創立 明治29 (1896) 年9月18日
 決算期 3月31日
 資本金 11,810百万円
 従業員数 2,061名
 主な子会社 (株)日車エンジニアリング、重車輛工業(株)、(株)日車ビジネスアソシエイツ

株式の状況

発行可能株式総数 32,800,000株
 発行済株式の総数 14,675,012株
 株主数 10,889名



大株主

株主名	持株数(千株)
東海旅客鉄道株式会社	7,352
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	856
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	419
日本車輛従業員持株会	281
日本車輛製造株式会社	244
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	155
村松 俊三	146
株式会社三菱UFJ銀行	141
RE FUND 107-CLIENT AC	131
日本生命保険相互会社	129

取締役・監査役及び執行役員 (2026年6月26日現在)

代表取締役 取締役社長	田中 守
専務取締役	深谷 道一

常務取締役	阿彦 雄一
常務取締役	富田 庸公
取締役(社外)	新美 篤志
取締役(社外)	加藤 倫子
取締役(社外)	福泉 靖史

常勤監査役(社外)	上田 素之
常勤監査役	平岩 寿朗
監査役(社外)	水野 泰二
監査役	臼井 俊一

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 中間配当	毎年3月31日 毎年9月30日
株主名簿管理人/ 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人/ 事務所取扱場所	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日及び12/31~1/3を除く)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様のお取引口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社にお取引口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

2027年3月期(2026年4月~2027年3月)スケジュール

2026年	6月26日	第197回 定時株主総会開催
	7月下旬	2027年3月期 第1四半期決算発表(予定)
	9月30日	中間配当基準日 株主優待品割当基準日
	10月下旬	2027年3月期 中間決算発表(予定)
	12月上旬	株主優待品送付 2026年9月末日時点で当社株式を1単元(100株)以上保有の株主様へお送りします。 株主優待品は、オリジナルカレンダーを予定しております。
2027年	1月下旬	2027年3月期 第3四半期決算発表(予定)
	3月31日	定時株主総会議決権基準日



日本車両オリジナルカレンダー
※実際のデザインとは異なります。

日本車輛製造株式会社

〒456-8691 名古屋市熱田区三本松町1番1号
 TEL. 052-882-3316
<https://www.n-sharyo.co.jp/>